

SAKURA

Since 2013

私は、「わたし」に会いにゆく。さくらプラザで、逢いましょう。



鈴木 啓資



鈴木 佳由



大澤 理菜子



早淵 綾香



白川 優希



さあ、開演の時間です。

== INDEX ==

Pick Up Artist

らららん♪ドレミ シリーズ Vol.17

お話と音楽でたのしむ プロコフィエフ ピーターと狼 出演

鈴木 啓資、鈴木 佳由

名曲サロンシリーズ Vol.32

2つのヴァイオリンとピアノによるコンサート 出演

大澤 理菜子、早淵 綾香、白川 優希

さくらプラザ自主事業レポート

さくらプラザ 春の芸術祭 2022

さくらプラザ 特待生コンサート

連載

【新連載】子ども×文化芸術×私たちの暮らす街

WA! 育つ! 育てる! / 小田 直弥

【新連載】戸塚でたのしむミュージック♪ / 山添 薫

【新連載】誰も真似てはならぬ!? 鈴木啓資の

◎さくらプラザコンサート企画案 / 鈴木 啓資

人は皆 背中で語る… 見返戸塚人



指揮者
すずき けいし
鈴木 啓資

俳優・朗読家
すずき かゆ
鈴木 佳由

～何かひとつ、シンプルな感想で良いから持ち帰って～



さくらプラザスタッフ(以下、スタッフ)—今回は5月5日の「らららん♪ドレミVol.17 ピーターと狼」公演にご出演のおふたりに、ご自身のことや公演に向けての想いなど、自由にトークしていただきます。おふたりは今回が初めての共演ですね。まずは自己紹介からお願いします。

鈴木啓資(以下、啓資)—初めまして、指揮者の鈴木啓資です。とはいえ、専門はピアノで、指揮を学び始めたのは大学生の頃です。教員免許を取得するのに指揮法を学ぶのですが、その時に「楽しいな」と思って。大学卒業後はハンガリーへ留学したのですが、そこでも自分で指揮の先生を探して、ピアノと並行して指揮も学び、今に至ります。

鈴木佳由(以下、佳由)—どうして音楽の道に進もうと思ったんですか？

啓資—少し異色かと思うのですが、ピアノを始めたのは8、9歳の頃で、中学生の頃はロボットに興味がありました。高校のときは理系のクラスに在籍していましたね。それまでずっとピアノはひとつの趣味で、あくまで学業と並行して自由に楽しんでいました。そして高校生の頃、進路とか関係なく「ピアノが楽しい」という気持ちがさらに強くなり、もっと深くピアノをやりたい、と思うようになったんです。そして大学受験の時にロボットかピアノか悩みましたが、「楽しい」という気持ちが音楽の道に進んだ1番の理由ですね。それは今の活動にも活かしていると思います。

スタッフ—ご両親はどんなお気持ちだったと思いますか？

啓資—進路についてはすごく悩んだのももちろん親にも相談しました。両親も音楽の世界とは無縁でしたので一緒に悩んで心配してくれていたんですが、僕自身の進路なので、最後は「どちらを選んでも、やりたいことならば応援するよ」と言ってくれました。後悔したくなかったので相談して良かったですし、好きな道を選ぶように背中を押してもらえたことを感謝しています。

佳由—音楽に限らず、進路とか、自分がやりたいことに悩んでいる人にとってすごく希望が持てるお話でしたね！「自分の信じた道に進んでいいんだ」と思わせてくれたご両親も素敵ですね。

スタッフ—佳由さんのことも教えてください。

佳由—「演劇集団 円(えん)」という劇団の俳優 鈴木佳由と申します。今回の公演では朗読を担当します。朗読は13歳の頃から始めました。通っていた中学校へのアウトリーチで俳優さんが朗読公演をしにきてくれた時に、お話だけで絵本の世界が目の前にぶわっと広がってきて、衝撃を受けたんです。そこから「どうしてもこれ(朗読)がやりたい!」と思って職員室までその俳優さんに会いに行き、後先考えずに「習いたいです!」って言っちゃっていたんです(笑)。



ヴァイオリン
おおさわ りなこ
大澤 理菜子

ヴァイオリン
はやぶち あやか
早淵 綾香

ピアノ
しらかわ ゆうき
白川 優希

～お客様と共演者と、一緒に楽しみたい～

さくらプラザにゆかりのある若手アーティスト3名によるコンサートを風薫る5月に開催。3人で一緒に作り上げる「音楽」、そして「コンサート」に今からワクワクしている様子でオンライン取材に応じてくださいました！

※1 さくらプラザサポートアーティストとは、2015年2月に開催された「第1回 さくらプラザ弦楽アンサンブル・オーディション」の受賞者です。
※2 文化活動に精励されている戸塚区内・横浜市内の近隣施設や法人、アーティストの方々と2015年度より「地域連携協定」を結んでいます。

—編成は異なりますが、さくらプラザでの共演は2度目ですね。

大澤 理菜子(以下、大澤)：早淵さんは大学の先輩でもあり、学生時代から仲良くさせていただき、演奏も一緒にさせていただいていました。白川さんとは2年前の同シリーズ公演で初めてお会いしたのですが、リハーサルの時も、てきぱきとリーダーシップを取ってくださり、演奏に関しても音楽全体をスムーズに運んでくださるので、頼もしいです。またこういう形で再会できて嬉しいです。

早淵 綾香(以下、早淵)：今回はピアノとヴァイオリンとヴィオラとチェロという編成でしたが、今回はヴァイオリン2丁とピアノというとても珍しい編成で、面白いなと思いました。その編成ならではの名曲をまたおふたりと一緒に演奏できるのがとても嬉しいです。

白川 優希(以下、白川)：個人的には、他の楽器の方と共演できることがまずとても嬉しいです。今回はさらに珍しい編成なので、プログラムを3人で決める時に「どうなるんだろう」と思っていたんですが、アイデアがたくさん出て、すんなりと決まりました。演奏予定のサン＝サーンスの『タランテラ』という曲は、私が目覚まし音にしている、自分の中で1番の名曲なんですけど(笑)、今回それを「名曲サロンシリーズ」で演奏できるのがとても楽しみです！

—さくらプラザは皆さんにとってどんなところでしょうか？

大澤：さくらプラザとのご縁は“さくらプラザ サポートアーティスト募集”のチラシが置いてあったのを見てエントリーした時からです。そこから何度も様々な演奏会に出演しました。そのたびに、ホールの美しい響きや、お客様との丁度良い距離感、他にはない魅力の詰まった公演プログラムや、他のサポートアーティストとの演奏や白川さんのように新たな出会いなどがあり、さくらプラザで演奏することは大事な公演の1つになっています。

早淵：私もサポートアーティストになってから何度も演奏させていただいて、その度に安心できる場所に戻ってきたような、例えるなら母校に戻って来た様な感じています。何度も同じメンバーと演奏をしたり、時が経って、勉強して成長した演奏でまたさくらプラザに戻ってきて本番を迎えると、懐かしい“ホーム”のような安心感があります。

白川：私は地元のアーティストということで、さくらプラザが開館してすぐの頃から様々なイベントに出演させていただき、さくらプラザからの難題(依頼)に応じていたら、色々なパフォーマンスができるようになった気がします(笑)。私からどんな企画を出し



※サポートアーティスト
大澤 理菜子(ヴァイオリン)



※サポートアーティスト
早淵 綾香(ヴァイオリン)



※地域連携協定アーティスト
白川 優希(ピアノ)

ても「やってみましょう!」とポジティブに考えてくださるので、さくらプラザと一緒に成長した、と思っています。アーティストを大事にしてくれるところがすごく伝わり、私もさくらプラザでの演奏機会を大事にしていきたいです。

—公演に向けて、お客様にメッセージをお願いします。

大澤：コンサートの始まりはモーツァルトの「フィガロの序曲」からプログラムがスタートし、ヴァイオリンデュオ、ピアノソロ、トリオという、登場人物が変わっていくような、コンサート全体を1つのストーリーとして、気軽に、でもしっかりと演奏を楽しんでいただけると嬉しいです。今はコロナ禍で演奏できること自体が少なくなっていますが、皆様の前で演奏できることに感謝しています。心を込めて演奏いたしますので、どうぞ楽しみにしてください。

早淵：何より、この編成のハーモニーが聴きどころだと思います。私自身もこの編成で演奏するのは初めてなので楽しみです。ヴァイオリン2丁というのは同じ響きを持つ楽器同士のアンサンブルですので、他の楽器との重奏とはまた違う音色が楽しめると思います。ヴァイオリン2丁だからできることもあります、やはりそれだけではできないこともあって、そこをどう面白く演奏するかということですね。さらにそこにピアノが加わることで音楽的にもハーモニー的にもより鮮やかな表現ができると思います。今回は弾いていても、聴いていても自然に楽しくなるような曲を演奏するのでお客様と一緒に楽しく過ごせるような時間にできるよう頑張りたいと思います。

白川：基本的に私はアンサンブルの経験が少ないので、今回のプログラムは挑戦がいがあります。以前、さくらプラザでおふたりを含めて人生初めてのピアノカルテットを演奏したとき、ピアノの楽器としての役割が見えてきたかも、と思いました。今回も、この珍しい編成で、どう音楽を作っていくのかを大澤さんと早淵さんと一緒に考え、演奏できることが楽しみです。コンサートが終わってお家に帰るときにすごく良かったなと思ってもらえるように頑張りたいと思います。

(取材・構成／近藤 喬之、山上 由布子)

啓資—子どもの頃の「好き」とか「なんかいいな」という気持ちって、大切ですよね。佳由さんの心を動かした俳優さんの朗読も聞いてみたいですね。

佳由—音楽とか朗読とか、目では見えないものが見えてくるような、そんな世界に浸ることが子どもの頃から好きでした。自分が好きなので、たくさんの人とその世界を共有して、同じ感動と一緒に味わってあげたら良いなと思って、「俳優」「朗読家」として活動しています。

スタッフ—自分の気持ちに真っ直ぐなところがおふたりとも同じですね。今回、子どもたちにどのようにこの作品を楽しんでもらいたいですか？

啓資—この作品に限らず、何かひとつでも良いので子どもたちにコンサートを聴きに行った思い出としてプラスの方向のものを感じ取ってもらいたいです。最初5分だけでも聴いて、「ホルンの音がすごかった」「打楽器が爆発した」とか、シンプルなことで良いので印象に残ったことがあればいいなと思います。子どもたちにとっては小さな感動や気づきこそ大切なのかな、と思います。そこから音楽や楽器に興味を持ってくれたら嬉しいです。僕たち演奏者はそういった感動を音で生み出す側なので、子どもたちの興味を引き出せるよう作品のおもしろさを演奏で伝えようと思います。僕たちも子どもたちにとって佳由さんを朗読の道に導いた俳優さんのような存在になれたらいいですね。


佳由—子どもの頃に「ピーターと狼ごっこ」をしていたくらい大好きな作品なので、今回出演できることになって嬉しいです。「お話」と「音楽」の組み合わせは「歌」とはひと味違って、物語のイメージがどんどん膨らんでいくんですね。言葉だけでは足りなくて、音楽だけでも伝わらないところを互いが補い合うような感じがとても好きです。啓資さんたちが作る音楽も早く聴きたいですね。どんな「声」でオーケストラと共演してお客様に伝えていこうかと私もわくわくしています。あとは子どもたちが、そして、昔子どもだった大人の皆さんも!どんな想像をしながら聴いてくれているかな、と思うと楽しみで仕方ありません。自分の頭の中や心の中にいろんな映像を思い浮かべて、自分だけの「ピーターと狼」の世界を創ってほしいです。

スタッフ—“さくらプラザのホール”という空間で、その場にいる全員がひとつの作品を違う映像を思い浮かべながら楽しむって、改めて素敵なお話だなと思いました。それが鑑賞の醍醐味なのかもしれませんね!

—一—これから何が始まるんだろう、というわくわくしたお客様の気持ちに伝えられるよう頑張ります!

(取材・構成／山上 由布子、近藤 喬之)


※鈴木啓資さんは同誌連載を担当中!詳しくはP.7へ!




らららん♪ドレミ シリーズVol.17
こどもの日! 特別公演 お話と音楽でたのしみ
プロコフィエフ ピーターと狼
日本語台本 岩谷 時子 版

5/5日(木・祝)11:00開演
出演：鈴木啓資(指揮)、鈴木佳由(お話)、小編成オーケストラ

*詳細は裏表紙をご覧ください。




公演 HP へ



名曲サロンシリーズ Vol.32
2つのヴァイオリンとピアノによるコンサート
響き合うヨーロッパの音色—

5/20日(金)14:00開演
出演：大澤理菜子、早淵綾香、白川優希

*詳細は裏表紙をご覧ください。



公演 HP へ

春の 芸術祭2022

さくらプラザ利用団体・アーティスト・区民…アートに満ちる3日間

2022
2/10
木

2022
2/12
土

全館を使い、市内で活動されている
方を演奏や展示で紹介しました。

さくらプラザ特待生コンサート ～ソプラノ 宮地 江奈さんをお迎えして～

とっか
未来創造
プロジェクト

2022年3月5日(土) 14:00開演

6回目の開催となった「さくらプラザ春の芸術祭」。2021年は残念ながら中止した当イベントでしたが、今回は感染症対策を実施しながら開催し、3日間で延べ1,200名のお客様にご来場いただきました！午前中のホールコンサートの開催など新しいイベントも交え、参加者皆様楽しんでいただけた3日間となりました。当日の様子を写真で一挙にお届けいたします！

※2020年度より「アートバザール」から「春の芸術祭」へ名称が変更となりました。

横浜のアート情報サイト「ヨコハマ・アートナビ」シリーズ「ようこそ区文へ！」にて取り上げていただきました！
ヨコハマ・アートナビ 検索



ホール 松村 優吾 & 井出 司



ホール 午後のコンサートで司会を務める二人

感染症の影響で自身の芸術活動が行えず、ひたすら自分と芸術と向き合う時間を過ごしてきた特待生たち。今までの“普通”だった日常に感謝して、自分たちのできることで恩返しをしたい、という彼ら・彼女らの思いから、初めての一般公開コンサートが実現。今公演では7名の特待生が出演いたしました。

久しぶりの舞台上に緊張しつつ、表情はたくさんのお客様の前で演奏することへの感謝と喜びでキラキラと輝きで満ち溢れていました。

さくらプラザ特待生とは

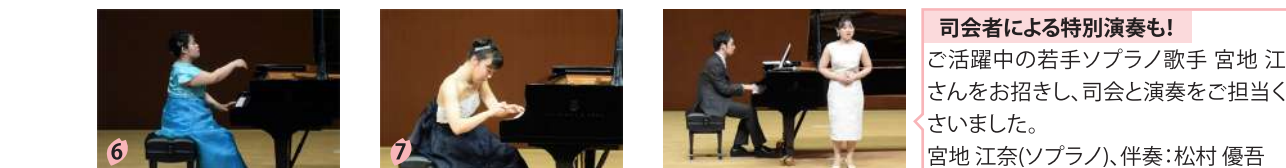
次代を担う若いアーティストたちで、公募により概ね13歳から24歳までの演奏家・表現者を目指している方を認定し、さくらプラザ主催公演を無料で鑑賞することで、自身の芸術活動に活かしてもらうための事業です。将来表現者として区民へ還元してもらおうことを期待しています。2022年4月現在は14名の演奏者を目指す学生たちが集っています。

プログラム

- 1. 石井 恵梨(ピアノ)**
♪チャイコフスキー=プレトニョフ編曲
組曲《眠れる森の美女》より 1. プロローグ、10. アダージョ
- 2. 佐々木 奏歩(ピアノ)**
♪リスト/メフィスト・ワルツ 第1番 S.514 R.181「村の居酒屋での踊り」(1部省略)
- 3. 飯田 和也/kazuya(ギター・ヴォーカル)**
♪kazuya/ひまわり 各曲オリジナルソング
♪kazuya/通過点
- 4. 小林 萌香(ピアノ)**
♪ブラームス/ピアノソナタ 第3番 Op.5 へ短調 第1楽章
- 5. 田邊 ゆり(チェロ)** 伴奏:藤吉 歌音
♪シューマン/幻想小曲集 Op.73より 第1曲
♪マルティヌー/ロッシーニの主題による変奏曲 H.290
- 6. 進 絢瑛(ピアノ)**
♪シューマン/3つの幻想小曲集 Op.111
- 7. 嵐田 ぞよか(ピアノ)**
♪ブラームス/「6つの小品」より Op.118-2 間奏曲
♪リスト/ラ・カンパネラ



後日、エフエム戸塚の番組にて今コンサートについて取上げていただきました！パーソナリティとのトークや、スタジオからの生演奏など、またひとつ貴重な経験ができました。



司会者による特別演奏も！
ご活躍中の若手ソプラノ歌手 宮地 江奈さんをお招きし、司会と演奏をご担当くださいました。
宮地 江奈(ソプラノ)、伴奏:松村 優吾

カーテンコールでは、特待生たちがいつかどこかで芽吹き、活躍している姿を夢見て、「どこかで春が(草川信 作曲)」を出演者で歌いました。さくらプラザから羽ばたく未来のアーティストたちをこれからも応援して参ります。

ドキドキの演奏後のトーク!



演奏への想いをお客様に直接自分の言葉で伝えることもできました。

終演後は宮地さん、松村さんを交えて特待生ミーティング



コンサート終了後はソプラノ宮地江奈さんと指揮・作曲・ピアノもこなす松村優吾さんも交えながらの「特待生ミーティング」を行いました。プロの音楽家との交流で自分たちの近い将来を見据えてもらえたら……と思います。積極的にお話を伺っている姿が印象的でした。



特別展示 さくらプラザを知ろう
さくらプラザのこれまでの取り組みとこれからの展望を分かり易くパネル掲示しました！この展示は、さくらプラザ・練習室4前の廊下壁面に2023年3月末まで展示しております。

地域にある文化施設(コンサートホール、劇場等)や社会教育施設(公民館等)が提供する体験活動は実に多様です。身の回りの物を使った手作り楽器体験、オペラ公演の合唱、親子リトミック、さらには子どもたちが中心となって演奏会を企画し、実際に公演まで実施する活動など、それぞれの施設がアイデアを凝らし、楽しいだけでなく、学びが潜在する体験活動を提供しています。

近年、教育の世界では、社会で求められるコミュニケーション能力や創造力、変化に対応する力などを育む機会として体験活動の重要性が謳われています。とりわけ、令和2年度文科省委託調査「青少年の体験活動に関する調査研究報告書」は、自然体験やボランティア等の社会体験、音楽・演劇・古典芸能鑑賞又は体験といった文化的体験、遊び、読書、お手伝いといった多様な体験活動での経験が、子どもの自尊感情や学校への肯定的な意識、感

情のコントロール、チャレンジする気持ちなどの総合的な育みに影響する可能性を示しています。これについて例えば、一見シンプルな活動に見えるかもしれない手作り楽器体験も、素材との対話の中で活発化する創造力、最後まであきらめずにやり遂げる力、達成感から得られる自尊感情、自分の作品(楽器)だけでなくお友達との作品の鑑賞を通して気づく多様性など、見方によっていくつもの学びの機会が詰まったプログラムであることが分かります。


子どもたちの学びの充実を、学校だけでなく、地域という視野で考えることで、開かれていくことがポイントとなるでしょう。このような視点で見るとき、地域にある文化施設や社会教育施設が提供する体験活動は一層意義深いものに見えてきます。各施設が体験活動を開発・提供し、そこに子どもたちが集うというこの営みに持続性をもたらし、そのためには各施設とともに支え、参加していく協働的な地域づくりが求められています。

オススメ BOOK

最後まであきらめずやり遂げる力や自分の感情をコントロールすることなど、これらは「非認知能力」として、近年、注目を集めています。詳しく知りたい方はこちらをお読みください。

『非認知能力一概念・測定と教育の可能性』

編著：小塩真司 出版：北大路書房



小田直弥
弘前大学教育学部音楽教育講座助教。東京学芸大学も未来研究所学術フェロー。ヤマハ株式会社によるエジプト国初等教育への日本型音楽教育導入事業(非認知能力の測定手法検討)に参加。『きかんしゃトーマスでつなげる非認知能力子育てブック』(共著、東京書籍)。

新連載

子ども × 文化芸術 × 私たちの暮らす街

WA!育つ!育てる!

小田 直弥

【ふむふむ、WA!】と驚くような、【輪】になって繋がっていくような……、文化芸術と街の視点で【子育て】を考える連載。
街・家庭で育つ子どもたちを大人はどう育てていくか。

Vol. 1 体験活動と協働的な地域づくり。



新連載

誰も真似てはならぬ!?

鈴木啓資の**秘** さくらプラザ コンサート企画

案1

静岡県島田市出身。東京音楽大学ピアノ演奏家コース卒業。リスト音楽院修士課程首席修了。ドホナーニ直系の流れを汲む日本人唯一のドホナーニ研究者。現在、ピアノ、アンサンブル、指揮、研究および執筆と様々な活動を続ける傍ら、後進の指導にも当たっている。国立大法津人奈良教育大学准教授。

日本には様々なクラシック音楽に適した素晴らしいホールが数多く存在するが、それぞれが持つ特徴は多種多様であり、その特徴を活かしたコンサートづくりも大切である。本号から、さくらプラザの特徴に着目し、それらを活かしたコンサートについて、自由な発想で考えてみたいと思う。

本記事を書くにあたって、さくらプラザについていろいろと調べていると、ホールには490インチもの大きさのスクリーンが備えられていることが判明した。クラシック音楽の演奏でさくらプラザを使わせていただいたことは何度もあるが、スクリーンを用いたことはなかったのでも驚きである。素晴らしい音響を持つさくらプラザのホールに、これほど大きなスクリーンを備えているのであれば、用いない手はないであろう。

スクリーンをどのように活かすかということを考えてみる。すぐに思いつくのは、やはり音楽と映像のコラボレーションだろう。実際のところ、そのような音楽と映像によるコンサートは、以前より多くなってきていることは確実であるが、ここまで恵まれた音響においてそのようなコンサートが行われるのは、そこまで多くはないのではないかと。私も自然をテーマとした音楽と映像によるコンサートを実施したことがあるが、そのホールには常設の大きなスクリーンはなかった。

私が考えるコンサート案はこうである。451席という中規模のホールではありながらも、広めの舞台を有することを考慮し、オーケストラによるコンサートを実施。スクリーンには天体や自然などをテーマとした高画質映像を投影して演奏を進めていく。天井や壁にはプラネタリウムを投影し、さらに客席内や舞台上に照明などを配置することで、コンサートホールを雰囲気のある空間へと変える。演奏する曲目はホルストの《惑星》のような天体に関係のあるものや、水をイメージさせるものなど、映像に合ったコンセプトを持つものにした。さくらプラザの素晴らしい残響に加えて、490インチスクリーンによる美しい映像、プラネタリウム、そしてオーケストラによる迫力ある演奏という様々な要素を持ったコンサートを、451席という環境で聴くことは贅沢なひとときになるのではないだろうか。

配信動画→



ドホナーニ2021プロジェクト 島田公演1
「プラネタリウムと巡る大曾根浩範の世界」
※通信料が発生します

新連載

戸塚でたのしむミュージック

Vol.1

はじめまして、山添薫と申します。今回から『戸塚と音楽と子育てについて』リアルに楽しくお話させていただくことになりました。第1回目は自己紹介をいたします!

私は戸塚区で現在リトミック教室をしている主宰者であり、戸塚在住のお母さんたちのコミュニティ「戸塚mama」創設のメンバーでもあり、小学3年の息子と年長の娘を育てる母でもあります。子育てをする中で、ふとした話ができる場所や成長を喜べる場所がないかと探していた時、お友達を誘ってリトミックを始めたのがリトミック講師になる原点でした。私はとにかく人と関わることが好きなので、人とつながるきっかけをくれた音楽とこの街に感謝しています。

エレベーターで抱っこされている子どもと目が合い、ついニコツとしてしまう……。かつて私がそうしてもらったように、子育てしやすい街はそうした1つ1つの“笑顔”の積み重ねだと思えます。初めての子育ては悩むことも多いですが、リトミックに参加する時は笑顔になれるようにお母さんも主役として参加してもらいます。止まったり走ったり、音に合わせて無我夢中になったり、ほんの少しでも自分時間に没頭したりと、「楽しかった～」と言ってリフレッシュして帰ってもらえるのが1番嬉しいです。



リトミックに限らず、お母さんが子どもと楽しめる場所は戸塚にはたくさんあります。

子育て支援の方が近所の施設で絵本や手遊び、ベビーマッサージ、手形アート、イベントフォト、ヨガ、ベビーサインなどなど、日々多彩な人々が活躍しています。その中でも「孤独なママを作りたい!」という想いを持って集まったサークルが「戸塚mama」です。

新しい生命が誕生した時、お母さんも誕生します。赤ちゃんと少しずつお母さんになっていく中で、私達の出会いが楽しかった子育ての1パーツになってくれたら嬉しいなと思っています。

2回目からは戸塚区での音楽体験を紹介していきます! お楽しみに。

山添 薫
二児の母。趣味はサッカー観戦。戸塚区で生まれ育ち、幼稚園教諭時代を経て、結婚後はリトミック研究センター認定教室「まんまるリトミック教室」を主宰。
「戸塚mama」創設メンバー。
ホームページ:
<https://manmarumusic.crayonsite.info>

人は皆 背中語る…

其之五十二

見返戸塚人

戸塚の魅力あふれる方々をご紹介します。コーナーです。

料理人になろうと決めたくっかけは祖母の影響で、実は屋号である「きみえ」は彼女の名前からとっています。幼い頃、両親が共働きて忙しくしていたので、私達三姉妹は祖母の手料理を食べて育ちました。「祖母の味」がすごく記憶にあるし、料理が楽しいということを教えてくれました。多分3歳か4歳位には「料理人になる」と決心し、ぶれることは一切なく料理一筋で今に至ります。一仕事を上でのこだわり、大事にしていることを教えてください。

—野田さんのお仕事内容や現在の活動内容を教えてください。メインの仕事は「節気の食卓」という、5~6名のお客様に向けての食事会の開催です。季節ごとの食材をコースに仕立てて召し上がっていただくという会で、夫がオーナーシェフを務めるフレンチレストラン「Hitotsu」の定休日にその場所を使って開催する他、地方のギャラリーや器屋さんとコラボさせていただいて出張お食事会も開催しています。その他に「節気のアトリエ」を主催しています。こちらは簡単に言うと料理教室ですね。ご家庭でも難しい技術は使わずに“季節の食材を使う”組み合わせを楽しむ”ということが出来るのを皆さんに知っていただきたいです。

—「植物料理家」とはどのようなお仕事ですか? 「植物料理家」という肩書は私が考えました。“野菜・果物・野草・ハーブ・豆”など植物の名の付くものは全部一皿のお料理に表現しています”ということを表すために決めた名前です。普段私達に馴染みのない野草やハーブなどの知識を深めて野草料理を作っていきたいと考えています。

—戸塚の皆様へメッセージをお願いします。戸塚には十数年住んでいて、住みやすく大好きな街です。子育て中の二児の母という立場からも、料理家としての立場からも、皆に心地よく美味しいものを食べていただいて、皆で元気に頑張りたいという想いを伝えていきたいですね。

この後ろ姿から何処のどなただろうと想像してみてください。次号では見返りポーズでお顔を公開します!

顔見世

植物料理家きみえ のだ ゆうこ **野田 悠子** さん
皆さんの心に届くような一皿を作り続けていけるように頑張ります!

戸塚人に逢いに行こう!

◆植物料理家きみえ 野田 悠子
Mail: kimie.yukonoda@gmail.com
◆Hitotsu
横浜市戸塚区戸塚町6003-3 REK Hills1F
TEL: 045-871-1705
<営業時間>
ランチ 11:00~15:00 (L.O. 14:00) /
ディナー 17:30~23:00 (L.O. 21:30)
定休日 月曜、第一第三火曜




次号の戸塚人は・・・?

さくらプラザ・ホールは2022年6月1日(水)~2023年1月31日(火)(予定)の期間、天井改修工事が実施されます。
 改修工事前最後のホール公演をお見逃しなく!

らららん♪ドレミシリーズ Vol.17 子どもの日! 特別公演

お話と音楽でたのしむ **プロコフィエフ「ピーターと狼」** 日本語台本 岩谷 時子 版

会場 ホール

5/5(木・祝) 11:00 休憩あり・約60分

全席指定 大人 1,000円(中学生以上)、子ども 500円(0歳から小学生)、親子ペア 1,200円(大人1枚・子ども1枚)

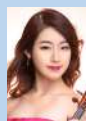
小編成オーケストラ



鈴木 啓資
指揮



鈴木 佳由
お話



和知 英恵
1stヴァイオリン



竹下 明日菜
2ndヴァイオリン



川村 凜子
ヴィオラ



石井 沙和子
チェロ



高野 響花
コントラバス



齋藤 遥
フルート



吉井 晴香
オーボエ



原田 祐来
クラリネット



大木 真優
ファゴット



金井 陽咲
ホルン



山元 風吾
打楽器



名曲サロンシリーズ

Vol.32 **2つのヴァイオリンとピアノによるコンサート** ~響き合うヨーロッパの音色~

サポートアーティスト:大澤 理菜子(ヴァイオリン)、早淵 綾香(ヴァイオリン)

地域連携協定アーティスト:白川 優希(ピアノ)

会場 ホール

5/20(金)

14:00 休憩なし・約60分

全席指定 一般 1,200円、学生 1,000円

名曲サロンシリーズ

Vol.33 **マリンバアンサンブルコンサート**

マリンバ・コフレ(篠崎 陽子、伊藤 すみれ、三神 絵里子)

会場 リハーサル室

8/2(火)

①11:30/②14:30 各回休憩なし・45分

全席自由 各回 1,000円



Ticket さくらプラザ先行電話予約
 6/15(水)14:00~
 *窓口販売は翌日9:00~

共催

さくらプラザ共催公演のお知らせ

*下記共催公演のチケットはさくらプラザでは窓口販売のみ取扱い

戸塚区演奏家協会によるガラコンサート vol.8

とつかのん

出演:中野 亜維里(ソプラ)、村上 雅基(フルート)、
 神藤 結(ソプラ)他

会場 ホール

5/29(日) 14:00

全席自由 前売 1,800円/当日 2,000円



コンセール・アミティエ
第45回 音楽サロン plus
 ~心で聴き、心で歌う~

吉府 充希子(ソプラ) 他

会場 リハーサル室

5/24(火) ①10:45/②14:15

全席自由 各回 1,000円



残席僅少

今年も開催します!

さくらプラザ オープンデー 2022

**真夏の
 こども探検隊**

詳細は6月頃公開予定

編集後記

令和4年度の情報誌SAKURA初号です!ホールは6月からの天井改修工事のため、公演情報はいつもより少なめです……。しかし、リハーサル室を利用したコンサートを始めとして、今年度も皆様にお楽しみいただける企画をご用意しております。その1つとして、今号から新連載のコラムが3本スタート!楽しんでくださいね♪(小野)



戸塚区民文化センター さくらプラザ



TEL: 045-866-2501 FAX: 045-866-2502



〒244-0003 横浜市戸塚区戸塚町16-17戸塚区総合庁舎 4F



event@totsuka.hall-info.jp

感染症対策などの詳細はHPから



*新型コロナウイルスの感染拡大状況によって公演内容の変更、または中止になる場合がございます。

さくらプラザ

検索



https://totsuka.hall-info.jp

*通信料が発生します。



Vol.54
 5・6月号